

取扱説明書

PC製肩掛半自動噴霧器5ℓ

この度は本製品をご購入頂き誠に有難うございます。
本取扱説明書には、安全にご使用していただく為の要点を記してありますのでご使用前に必ずお読みになり正しくご使用下さい。
お読みになった後は、いつでも読める場所に保管して下さい。
又、本書を汚損したり紛失した場合はお買い上げの販売店にご注文頂き大切に保管して下さい。本書の使用事項以外のご使用は大変危険ですでおやめ下さい。

はじめに 本書に記載した▲の表示のある注意事項や機械に貼られた▲の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり必ずお守り下さい。
なお、▲の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店にご注文頂き必ず所定の位置にお貼り下さい。

用途

- 庭木の殺虫・消毒
- 園芸用・観賞用植物への散水、殺虫、殺菌の散布
- 野菜・果樹・草花へのホルモン剤の散布に

使用後の手入れ

1. 各部の洗浄
 - △ ※けがをする恐れがありますので、タンク内に手を入れしないで下さい。
 - 1) タンク内の残液を払い、清水できれいに洗い流して下さい。
 - 2) 再度タンクに清水を入れコックを開いた状態でピストンを上下して、ホース、コック、ノズルパイプ、噴口部に残った薬液を洗い流して下さい。
 - △ ※ピストンの加圧操作を止めても空気室～ホースに圧力が残っている場合があります。この状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、コックを吐出状態として、空気室～ホース内の圧力を抜いて下さい。
 - △ ※空気室内部に薬液が残っていると吸入弁球の固着の原因になりますので洗浄作業は充分に行ってください。
 - △ ※余った薬液及び機械洗浄剤は、河川、水源池、下水等に流入して被害を及ぼさないよう薬害のない方法で処理して下さい。
 - △ ※前回使用した薬液がタンク、ホース、噴口等の内部に残っていると薬害を起す危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を充分に洗い流して下さい。又、タンク内に残った薬液はタンクを劣化・腐食させ薬液が漏れる原因にもなりますので、洗浄作業は充分に行ってください。
2. お手入れ
使用後は次回の噴霧作業に備えて、ピストンの金属部、L型パッキンに少量のエンジン油、ギヤ油、又は、ミシン油を塗布して下さい。

▲安全のために必ずおまもりください

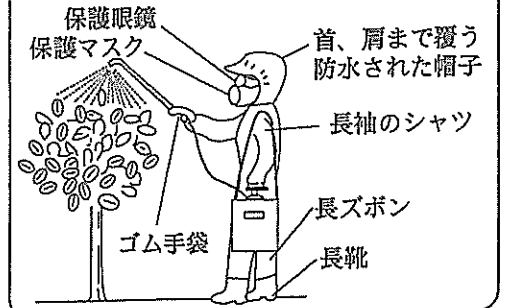
作業まえの前に	農薬の取り扱い
<ul style="list-style-type: none"> ・次に該当する方は、この製品をご使用にならないで下さい。 <ul style="list-style-type: none"> ・酒気をおびた方 ・過労、病氣、薬物（農薬を含む）の影響及び、その他の理由により、正常な防除作業ができない方 ・妊娠中の方 ・満15歳未満の方 ・負傷中の者、生理中の女性等、農薬による影響を受けやすい方 ・作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、磨耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認して下さい。 ・安全を損なう恐れがありますので、改造しないで下さい。 ・この製品を他人に貸与又は、譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導して下さい。 ・けがをする恐れがありますので、タンク内に手を入れしないで下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防除、除草用の農薬用薬品の散布、散水用途以外には使用しないで下さい。 ・やけど、火災の恐れがありますので強酸性の薬品・塗料・シンナー・ガソリン・灯油・ベンジン等は絶対に使用しないで下さい。 ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用して下さい。 ・安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないで下さい。 ・誤使用、誤飲の危険性がありますので、薬液は絶対に別の容器に移し換えないで下さい。 ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬液メーカーの指示に従って、その都度正しく処分して下さい。空容器を洗った水は、薬害のない方法で処分して下さい。
作業中	作業後と保管
<ul style="list-style-type: none"> ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行って下さい。 ・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、又、人体や散布対象以外のものにかからないよう風や周囲の状況に十分注意して作業を行って下さい。 ・作業中、作業後にめまい、頭痛を生じ、又は、気分が少しでも悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、医師の診断を受けて下さい。 ・薬液を入れた状態でタンクを傾けると、薬液が漏れる場合があります。薬液タンクは傾けたり、落下させないで下さい。 ・コックを停止状態で必要以上に加圧しないで下さい。 ・加圧した状態で長時間放置しないで下さい。 ・作業中に噴口部を清掃する場合は、顔面等に薬液がかかる恐れがありますので、必ずコックを停止状態とし、噴口部を取り外してから行ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気室～ホースが加圧された状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。接続部を外す前に周囲の状況を確認し、コックを吐出状態として、空気室～ホース内の圧力を抜いて下さい。 ・作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをして下さい。又、作業期間中は衣服を毎日取り替えて下さい。 ・余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源地、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分して下さい。 ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当らず風通しの良い子供の手の届かない場所に保管して下さい。 ・前回使用した薬液がタンク、ホース、噴口等の内部に残っていると薬害を起す危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を充分に洗い流して下さい。又、タンク内に残った薬液はタンクを劣化・腐食させ薬液が漏れる原因になりますので、洗浄作業は充分行ってください。

▲保管の仕方

保管は室内の直射日光が当らなず風通しのよい子供の手の届かない場所にして下さい。

※プラスチック部は、直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下する場合があります。又、注意表示ラベルも変色したり、剥がれやすくなりますので保管には充分に注意して下さい。

▲安全作業の服装



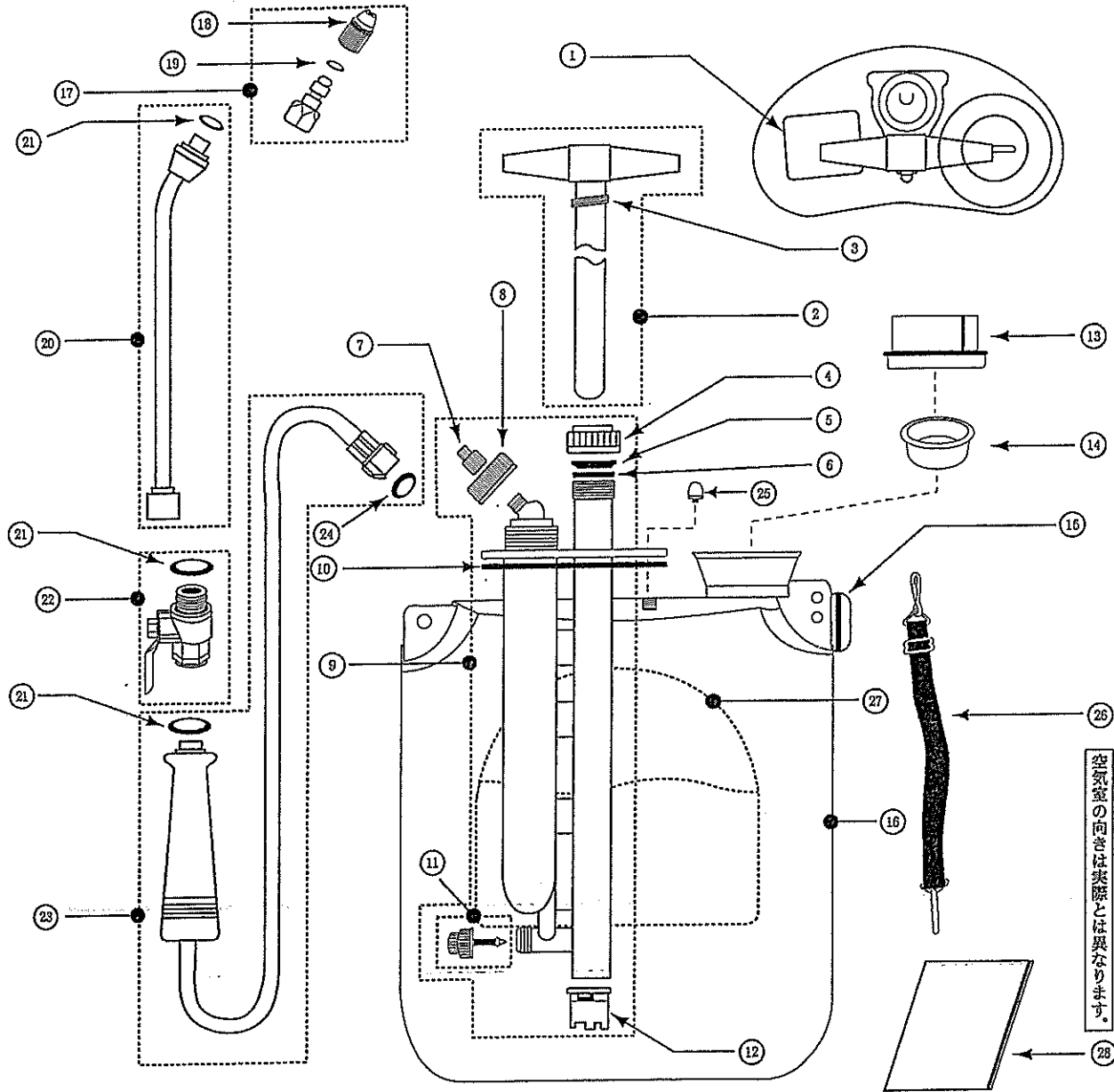
故障と修理方法

内容	原因	処置
ピストンの動きが悪い	●ピストン、L型パッキンの油切れ	○ピストンの金属部、L型パッキンに少量のエンジン油又は、ギヤ油を塗布する。
ピストンが上がらない	●弁球の固着	○弁球に軽い衝撃を加え弁球の固着を外す。
ピストンが押し戻される	●空気室一式の不具合 ●逆止弁一式の不具合	○新品と交換する。
液の出が悪い 又は、噴霧状態が悪い	●吸入弁へのゴミの付着 ●空気室一式の不具合 ●吸入弁部の磨耗、傷 ●ノズルキャップ又は自在ノズル本体へのゴミの付着	○吸入弁を外して清掃する。 ○新品と交換する。 ○吸入弁を新品と交換する。 ○清掃する。 ○ノズルキャップを外して清掃する。
グランド部からの液漏れ	●グランドキャップのゆるみ ●L型パッキンの劣化、老化	○グランドキャップを締め付ける。 ○新品と交換する。
各部ネジからの液漏れ	●ネジのゆるみ ●パッキンの劣化、老化	○充分締め付ける。 ○新品と交換する。
液が止まらない	●コックの破損	○コックを新品と交換する。

△ ※けがをする恐れがありますので、タンク内に手をいれない衣で下さい。
△ ※作業中噴口部を清掃する場合は、顔面等に薬液がかかる恐れがありますので必ずコックを停止状態とし、噴口部を取り外してから行ってください。

※Oリングを交換する際は、必ずOリング全面に注油して下さい。
※注油はエンジン油、又は、ギヤ油を使用して下さい。
※上記の処置を行っても直らない場合、又は、上記以外の症状の場合は販売店にご相談下さい。

分解図



記号	名称	記号	名称	記号	名称
1	注意ラベル	13	ロートキャップ	25	空気室蝶ボルト
2	ピストン一式	14	ロート	26	肩掛バンド
3	ピストンバネ	15	ノズルパイプホルダー	27	ネームラベル
4	グランドキャップ	16	タンク	28	取扱説明書
5	L型パッキン	17	噴口一式		
6	台ゴムパッキン	18	噴口キャップ		
7	吐出口 (Oリング付)	19	Oリング (P-6)		
8	吐出口キャップ	20	ノズルパイプ一式		
9	空気室一式	21	パッキン		
10	空気室パッキン	22	コック一式		
11	逆止弁一式	23	握り付きホース一式		
12	吸入弁一式	24	パッキン		

※注意表示ラベル及びネームラベルは目づらくなったり、はげたりした場合は必ず新品と交換して下さい。

仕様

商品名	樹脂製肩掛噴霧器
型式 (商品番号)	SPC-50 655807
タンク容量	5 L
ノズルの長さ	約 35 cm
ホースの長さ	1.0 m
本体寸法	360 mm × 250 mm × 128 mm (高さ × 幅 × 奥行)
乾燥質量	約 1.0 kg
主要部材質	タンク: ポリエチレン ポンプ部: 黄銅、ポリプロピレン その他: 黄銅、軟質塩化ビニール、ポリプロピレン、ポリエチレン

仕様

- 1. 部品の取り付け**
 分解図を参照して肩掛バンド、ホースバンド、コック、ノズルパイプ、噴口を組み付けます。
 各部の締付ネジは、十分に締め付けて下さい。
 △ ※作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部のゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、磨耗、破損のないこと等、各部に異常が無い事を確認して下さい。
 △ ※安全性を損なう恐れがありますので、付属のホース、コック、ノズルパイプ、噴口は他の用途 (動力噴霧器での使用、コンプレッサでの使用等) には使用しないで下さい。
 △ ※破損の恐れがありますのでホースを、無理にねじったり、引っ張ったり、曲げたりしないで下さい。
- 2. 薬液の入れ方**
 ロートキャップを取り外し、ストレーナーを通じて、調合した薬液をタンクに入れます。
 △ ※薬液は他の容器で調合して下さい。やむを得ず薬液タンク内で調合する場合は、必ず最初に水を所要量の半分ほどいれてから農薬を入れ、残りの水を入れ希釈して下さい。また、薬液の調合は必ず薬品メーカーの指示に従って下さい。水和剤、水溶剤は、十分に水に溶かしてからご使用下さい。(沈殿しやすくノズル等の詰りの原因となります)
 △ ※薬液を入れる前にコックは必ず停止状態にして下さい。
 △ ※薬液を入れたら、すぐにロートキャップを確実に締め付けて下さい。
 △ ※薬液を入れた状態でタンクを傾けると、薬液が漏れる場合があります。
 △ ※タンクに薬液充填後、自動車などで運搬する場合は、薬液が漏れる可能性がありますので、必ず本機が傾かない状態に固定して下さい。

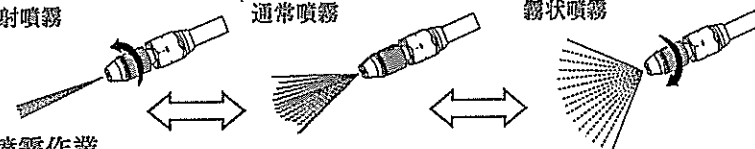
3. 作業方法

1) コックの取扱

- コックはレバーの向きにより吐出、停止を切り替えできます。
 △ ※作業中以外はレバーを停止状態にして下さい。(図1)

2) 噴霧の調整

- 噴霧キャップを締めこむと細かい霧で広い角度に散布します。
 噴口キャップを緩めると荒い霧で直射状に遠くまで散布できます。
 直射噴霧 通常噴霧 霧状噴霧



3) 噴霧作業

- 噴霧器を肩に掛け、コックを吐出の状態として、ピストンを上下させるとノズルから霧が出ます。
 ピストンを早く上下させると多量の吐出となり、ピストンをゆっくり上下させると少量の吐出となります。
 噴霧状態に合わせてピストンの動きを調整して下さい。

- △ ※コックを吐出状態にする時は周囲の状況を充分確認して下さい。
 作業中以外はレバーを停止の状態にして下さい。
 △ ※農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行って下さい。
 △ ※作業中にめまい、頭痛を生じ、又は気分が少しでも悪くなった場合には直ちに作業を中止し医師の診察を受けて下さい。
 △ ※コックを停止の状態が必要以上に加圧しないで下さい。
 △ ※加圧した状態で長時間放置しないで下さい。
 △ ※ハウス内では換気を行いながら作業して下さい。

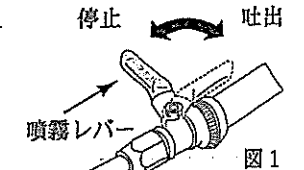


図1

発売元：藤原産業株式会社 兵庫県三木市福井2115-1

TEL 0794-86-8203